

1. 授業のねらい・概要

企業に参加・構成する人々は、それぞれがそれぞれの感情や考え方を持った、生きている人間なのです。そういう人間が集まって形成される企業について研究しようという場合、単にハード的側面ばかりを追うだけでなく、企業の「ソフトな側面」についても充分研究する必要があるのです。

人が集い、集団を形成するところには、必ず「カルチャー」が芽生えてくるものです。どの企業にも、「コーポレートカルチャー」というものは必ず存在しています。人間と同様に、企業にも個性があります。企業の個性ともいえるべきもの、それが「コーポレートカルチャー」なのです。この講義はそんな企業の「ソフトな側面」すなわち「コーポレートカルチャー」にスポットを当て、研究して行こうというものであります。

講義内容の詳細については「授業計画」の項にゆずりますが、後期は主にコーポレートカルチャーの「構造」と「機能」について講義を行う予定です。

2. 授業の進め方

テキストは用いず、板書を中心に講義を行う予定です。資料の配布は適宜行います。

3. 授業計画

1. 本講義の概要、授業の進め方、成績評価の説明	9. パラダイム共有の意義
2. 個人の態度とコーポレートカルチャー	10. 行動規範共有の意義
3. 経営者の役割と経営理念	11. 価値観生成・浸透のための効果的要因
4. 組織に価値観が必要な理由	12. パラダイム生成・共有化のための効果的要因
5. 共有された思考様式としてのパラダイム	13. 行動規範の共有化のための効果的要因
6. 具体的行動指針としての行動規範	14. コーポレートカルチャー定着のための必要条件
7. 「共有」の意味	15. 本講義の総まとめ、定期試験の説明
8. 価値観の共有の意義	

4. 到達目標

企業の「見えざる構造」であるコーポレートカルチャーについて理解を深めた上で、議論が行えるようになることを目標としています。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

講義計画を参考に、次回講義までに参考文献などを読んで予習をしておいて下さい。

6. 成績評価の方法・基準

後期末試験の成績を評価の基本とし、平素の受講態度などを加味した上で総合的に評価します。

7. テキスト・参考文献

〈参考文献〉

- (1) 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社、2003年。
- (2) 河野豊弘『変革の企業文化』講談社、1998年。

8. 受講上の留意事項

本講義の履修に関して特に制限はありませんが、『経営学基礎』の単位が取得済みであることが望まれます。